

來郡さるゝ……

巖谷小波先生揮毫會

▽……本社の主催にて
巖谷小波先生が本郡教育會の招聘に應じ各處に講演の爲め本月下旬頃來郡さるゝを好機とし本社は小町兒童をして親しく先生の木伽嘶に愉悅を感じせしめんことを御講演會を開催する費用に當てる爲め風雅なる畫に配するに先生一流の俳句を以つてせる揮毫を乞ふて是れを左記の如く一般に頒布する事になりました、何卒各位に於かれては平町兒童娛樂の爲めに貢獻せんとする本社の微衷を諒せらるゝと同時に既に定評ある先生の芳墨を永遠に傳へる爲め此舉を賛せられて陸續ご御申込みの程を願ひ上げます

- 半切詩贊 十圓
 - 同句のみ 五圓
 - 絹畫贊 十五圓
 - 同句のみ 七圓五錢
- 色紙、短冊、雅帳、扇面等は右の半額
注意——豫定數に達すれば
直ちに締切ります

申込所 常磐毎日新聞社
平町長橋町卅五番地

移轉披露

たいじいので
評判が高い
福納豆
滋養豆 製造所
黒川商店
平町 土橋通り

看護婦派出
の求に應ず
平町南町
看護婦會
電話三〇七番



定一部並武錢 廣五十二
休日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町卅一
印刷所 本報専屬 印刷所 本報専屬 印刷所 本報専屬

發行兼編輯人 川崎文治
印刷所 常磐毎日新聞社

刊夕日四十月一

新電二番
電話二〇〇番

耳鼻科専門
大和田醫院
平町南町
入院應需 自炊ノ便アリ

一日遅れば一日の損
此の際至急
福麥黨に入會を
おすゝめ致します

福麥 は何處にも此處にもある様なもの
が品が違ひましてドンナ麥飯さらひ
な人でも一度たべれば
「なる程これは甘い」
「滋養になつて頼る經濟だ」
ご申されて福麥黨になること請合です

平町土橋
マルマン
商店

和器屋
安價！豊富
シヨバル
ワイシャツ
本毛シャツ
子供マント
洋品各種
家庭ノ編物トシテ
經濟ナ毛糸各色澤
山揃ッテ居リマス
海岸線平町
電話百四十番

鶴屋
電話百四十番

小川郷産
御影石各種
玉石もあり
砂利及び砂
中山岩 採掘
石材商會
平町南町(火見下)
電話呼出二六七番

金色夜叉のモデル
巖谷小波
尤も其頃は先方の家は益々富んで行くに反して此方は負債に苦しめられて居たから事によつたらとは思ひ乍らも而も互に幼馴染殊にその兄なる人は多年西洋の空気を吸つて来て、自由結婚の實例を見て居る筈だからめつたにはねられる事はあるまいと少からぬ決心にも驅られてさこそ談判に及んだのである。

所が其時の先方が意外にも不承知の理由と云ふのが

曰く云ひ難しと云つた様な風だ。かうなると又僕は例の去る者は追はず主義で又必しも腹は立たなかつた。否むしろさうした結果となるものとは知らず此方でも自惚れて居た事を今更極まり悪く思ふの外は無い。就も此時は他に僕の同情者があつて其人が又ある先輩を説き、その先輩が先方と特に懇意であるのを幸ひ更にもう一度動かそうとしたが、これはまた「己に御本人にも断つた位だから」と云ふ一語でそれなりけりに成つてしまつた。が流石に先方でも僕に氣の毒だと思つたか即ちその兄なる人がやがて僕を席に呼んで「こんな事から此後の交際が互に氣まづく成つてはいかん」と云ふので慰藉の爲めの晩餐を供をしてくれたが、その席上の話の序に「一體かう云ふ問題は本人の意向を確めねばならぬから、實は妹の考へも聞いて見た。所が妹もそう云つて下ださるのは有難いが、なまじ今まで人から彼は云はれて居たのだから此際さう云ふ問題は流して、むしろ友達として清く永く交際したいとかう云ふ返事であつたよ、だから君も悪しからず。」と云ふ、(つづく)

巖谷小波先生の 揮毫を乞ふ事は……

間接に平町児童を 喜ばせる事となる

本社主催の巖谷小波先生揮毫會は既記の如く各方面より法目をひき此好機を逸すべからずと爲してこの申込み昨日迄に左記の如し

- 大森勇、星恒明、草野七
- 五三之助、吉田安雄、柳
- 澤篤義、神谷辰五郎、井
- 上茂作、諸橋久太郎、松
- 本愛三、酒井國三郎、平
- 陽實科女學校、山崎福之
- 助、藤田榮助、綿引清仙
- 堂、加藤丈夫、大和田豊
- 吉、青沼淡夫、阿部政右
- 衛門、稻野實、森合芳男
- 九方商店、鈴木武夫、伊
- 坂貞正

にて此外新聞紙上にて揮毫會の趣きを知つたと迄々耶麻郡奥川村の矢部平太夫と稱する末見の人からも依頼狀が舞ひ込んだ程であるが本社が此催しを試みるに至つたのは最初巖谷小波先生の來平を機として平町兒童の爲めに本社

主催の お伽講演會

を開催せやうとする計畫が持ち上り其費用としては他社の例にならなう一般から寄附金を募つてはどうかとの議もあつたが時節柄の事として一部の人のみが常に寄附金責めに逢遇して居る場合に際し如何に公共的催しと雖も常に廣告其他を強請せざる故を以つて諸彦よりの信頼を得て居る本社が主催する以上此場合徒らに

寄附金

を募る事はかんばしい事でないと思はれ先生に乞ふて揮毫會を開き是れを各方面に頒布してお伽講演會開催の資に充

平に圖書館が欲しい 町民の教養が欠けて居る 有志の町勢側面觀

近年平町は異常なる發達を遂げ當に市としての資格を具備せんとしつゝ平町の側面を觀察し居る某有志は語る『平町は近來異常に外面的に發達して來た事は認められるが實際に於ける智育

石城の山の 雪に埋る

石城郡三坂村方面は十日の降雪して二尺の積雪を見また永戸村や澤渡村は尺餘に及通行杜絶の姿となつた由

いかと感ぜられる即ち此の大平町にして一つの整つた圖書館の無きは實に遺憾である、平第一小學校に平圖書館はある様であるが地の利を得てないのと蔵書の僅少との點に於て殆んど有名無實であるこ

當せん此舉に及んだのである。故に天下知名の上である先生の書請を求めらるゝ事は間接に平町兒童の爲めに盡瘁せらるゝ事となり一舉兩得の結果を醸すのであるから是非此旨に依る本社此の度の揮毫會を贊助され續々申込あらん事を切望するのである

ノン兵衛な父に 愛想を盡かして家出 行き暮れた若者

東白河郡石井村大字上石井農音松長男高田己之吉(五)の實父音松(五)は二三年前から飲酒に身をもちくづし些しばかりの小作を遺つて居たが其收穫米は全部酒代となし常に赤貧



黄込みわでん

材料は八ツ頭百匁、焼竹輪八十匁位、コンニャク三枚、焼豆腐三枚、ガンモドキ三

然も場所 は平商業學校にても、平陽實科女學校舊校舍にても好箇の場所があらうと思ふ

諸橋家の慶事

諸橋久太郎氏二男元三郎氏は泉村々長中村立射氏の媒酌に依り磐東銀行頭取泉村江尻傳孝氏の二女ヒサ子嬢と婚約成り本十四日華燭の典を舉げたが新郎は鷺中卒業後早大政経科出身の秀才にして新婦は警女校を卒業し東京女子職業學校を修めた才媛である

川平火防警鐘

石城郡湯本町入山川火防組合にては八日高さ卅尺の警鐘を建設したと

不平受付

平町の撤水装置 平町では先般有志家の間に撤水自動車購入の計劃ある由にて數回役場に會合を催したそうだが今正に風の荒れる日のみ續いて居るに拘らず小田原評議にばかり日を過して居たのでは實際に是れを役立たしめる事が出来ぬと思ひますが如何でせう

伏見助役の答 其計劃は着々歩を進めて居るやうです假りに本年の冬の間には實現を見る事が出来なかつたとしても夏頃の日照り續き等に際しては實際の必要を感ずる日が少くないでせう

分蒸込んで後適宜の砂糖と醬油にて味をつけなほ充分煮込んで供します、お寒い時にはよく体が暖まつて結構でございます、なほ薬味といたまはしては、ときがら七色さうがらしきざんだネギおろし大根等がよろしくこれを入れると又格別の味が出来ます

常磐片々

平町に圖書館が欲しい……此叫び聲は今新しく聞く譯ではない

數年來の要求、夫れの満さぬ處に平人士の淋さがある

眞の必要に駆られて智識階級が力強く結束する時、平町にふさはしい圖書館の一つや二つは決して至難事ではない

結束が足りないからだと

廿二台の自動車 縦横に平町を走る

平署管内の自動車数は現在廿二台を算するに至つて居るが大正十二年にはタツタ一台のみで昨年に至り急激に増加し今や平町は交通上に於て純然たる都市の觀が深い、しかしこれ等を町村別にすると内郷村磐城炭礦所有の自家用貨物八台、乗用二台で營業用としては小名濱町の乗用貨物各一台、湯本町の乗用五台、貨物一台、平町乗用一台、貨物一

台であつて其數に於ては平町が一番負けて居る

平町南裡新道路は昨年六月から工費約二萬圓を以つて小名濱商會社が請負を爲し延長六百七間半に亘り工事を施し昨年十月完成した

が十三四の兩日に亘り渡邊土木監督所長及び吉澤町役場技手検査の上滞りなく平町に引渡し済みとなつた由

酒母の鑑評會

石城郡酒造組合では目下酒造實地指導の爲め仙台稅務監督局技師湯目己九郎氏が小名濱町清世界醸造元小野普平氏方に滞在するを好機とし十八日午前九時より平稅務署樓上に於て酒母の鑑評會を開き斯道の改善發達に資すると

植田水力純益

植田水力電氣株式會社にては十七日午前十時から株主總會を開く等であるが当期純益金は九萬三千七百八十四圓七十錢で配當年一割三分の由

平局簡易保險

平郵便局に於ける勤儉週間中局員が簡易保險募集集中であつたがその結果は五十五口にして日曜十八日に特に取扱つた貯金數は五口で金額は三十圓五十六錢であつたと

平町人事
出生
△北月町九 當時東京市北豐島郡南千住町渡邊義氏長女ツル子
△研町一 宮宮傳七氏二女女子
婚姻
△白銀町一〇 雜貨商丸山徳平氏

募集
文藝其他投稿を募集します
タキ(二四)
△新町二二 桑原政一(三五)

死亡
△新町二二 桑原政一(三五)